



### 図書館

昭和61年開館。全国的にも珍しい、池の上に立つ“水上図書館”。約23万冊の蔵書があり、年間来場者数は約20万人。平成26年の7月に通算貸出冊数が1,000万冊を突破。春には、南側の沿道にコヒガンザクラが咲き誇る。



### たろうくん&ひめちゃん

浦島太郎伝説が残るまち“たけとよ”が誇るキャラクター。昔話の国から、子どもたちにやさしさと思いやりを伝えるためにやってきた。町関連イベントでは、子どもから大人まで大人気。ゆるキャラグランプリにもエントリー。

### ゆめころん

武豊町コミュニティバスの愛称。平成22年に運行を開始し、段差解消スロープを完備するなど、車椅子の方にもやさしい作りになっており、地域の足として活躍中。ピンクとブルーの2台のバスが、町内を巡回。1乗車100円。



### ゆめたろうプラザ

「芸術と科学のハーモニー」をコンセプトに、港と船と海をイメージした文化・芸術の拠点施設。輝きホール(最大席数678席)、響きホール、情報考房、創作工房などがある。コンサートや講演会をはじめ、成人式なども行われる。ほかにもランチが楽しめる“喫茶「ゆめひろば」”がある。

# 武豊の魅力再発見



ギンヤンマ

オニユリ

シロバナナガバノイシモチソウ

### いちちょうだしちしよくぶつくんらく 壱町田湿地植物群落

町の北西部に位置する、シロバナナガバノイシモチソウなど7種類の食虫植物や、シラタマホシクサなどの貴重な湿地植物の群生地。愛知県指定天然記念物として大切に保護され、年に5日間ほど一般公開が行われる。



ほうしょうかく

### 鳳翔閣

明治20年に日本初の陸海軍大演習が武豊の地で行われた。天皇后様が行幸啓され、その際に休憩所としてご利用になったのが、和洋折衷様式の鳳翔閣。昭和35年に取り壊され、現在は石碑が残るのみ。



もりまんえもん

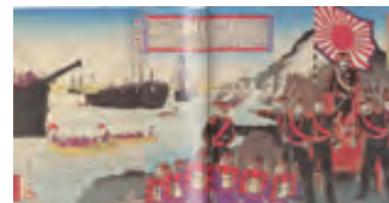
### 森田萬右衛門

明治12年、28才のときに三芳村(現在の富貴地区・東大高地区)の戸長に就任し、干拓や道路改修、教育などに尽力。とりわけ、農業振興には大きな貢献をされ、「知多半島にも木曾川から水を引き、用水を造るべきである」と提言し、現在の愛知用水の礎を築く。



### 武豊港(現:衣浦港)

明治32年開港。天然の良港として栄え、輸出入品目は石油や石炭、味噌・たまりなど。貿易額が全国10位を記録した時期もあった。昭和32年に統合・改名され、衣浦港となる。毎年7月には、半田市・碧南市・武豊町が持ち回りの主催で、衣浦みなとまつり花火大会が開催され、多くの人で賑わいをみせる。



### 転車台

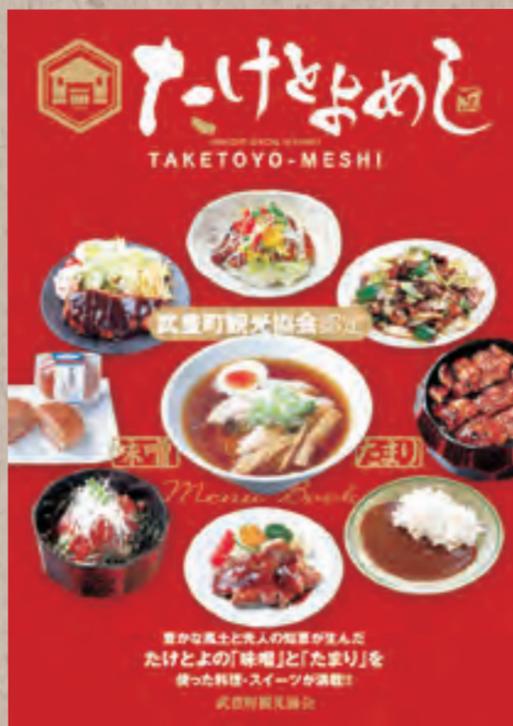
旧国鉄武豊港駅で貨車の方向転換に使われており、2本のレールが直角に交わる“直角二線式”で、国内ではここにしか現存しない大変貴重な鉄道文化遺産。平成21年には国の登録有形文化財に登録された。



### JR 武豊線

明治19年に、愛知県下初の鉄道路線「JR武豊線(熱田～武豊間)」が開通。当初は、関東と関西を結ぶ幹線鉄道建設のための資材運搬線としても活躍し、現在の転車台付近に「武豊港駅」があった。蒸気機関車からディーゼル列車に変わり、平成27年からは電化される。

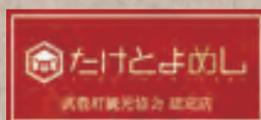
## 武豊でしか味わえない 武豊の味噌・たまりを使った料理&スイーツ



武豊町には昔ながらの醸造法で、じっくりと味噌とたまりをつくらせている蔵元がある。『中定商店』『丸又商店』『カクトウ醸造』『泉万醸造』『伊藤商店』『南蔵商店』の6か所がそれだ。そんな武豊町ならではの“おいしさ”を知ってもらおうとはじまった「たけとよめし」。どれも個性豊かで、武豊の魅力が詰まっている。

### たけとよめしとは?

- 一、武豊の蔵元の味噌、たまりを使用している。
- 二、武豊の味噌、たまりがしっかり生かされている。
- 三、たけとよめしに使っている食材はできる限り知多半島産のものにする。
- 四、メニューは一品として成立している。
- 五、作り手は武豊の味噌、たまりへの愛情をしっかりと注ぐ。



たけとよめし登録店は、のぼりやステッカーにある、このロゴマークが目印